

キルソン山天文臺からは、

1. **Contributions from Mt. Wilson Observatory.** 研究論文で、Ap. J. の別刷である。
2. **Communication from Mt. Wilson Observatory.** 研究論文で、米國學士院報告其の他の別刷である。
3. **Director's Annal Report.** 臺長の年々報告。

リック天文臺からは

1. **Publications of Lick Observatory.** 記録的な研究大論文。
2. **Lick Observatory Bulletin.** 研究概要。

ロ 1 エル天文臺からは

1. **Publications.**
2. **Transactions.**
3. **Circular.**
4. **Bulletin.**

其の他、多くは此の類で、日常、観測研究の大に行はれてゐる天文臺では、Publications, Veröffentlichungen, Annals 等の表題で、記録的 (documental) な大論文を出し、又、研究概要や其の速報のために Circular, Bulletin 等を出し、又、臺員が各方面に發表する論文を、天文臺として秩序よく纏めて置くために近來は Reprints 「別刷」といふ表題のシリーズが流行してゐる。

尙ほ、世界の各天文臺は皆何れも門戸開放で、總ての設備や其の活動ぶりを天下に知らせ合ひ、相互に連絡や援助をし合ふ必要もあり、又或る天文臺では其の出資者や監督者に事業の報告を臺長が毎年行ふために Director's Annal Report といつたやうなものを出してゐる。——まづ最も標本的なものの上記の米國ハーバード・カレッジ天文臺であらう。

ニユ | ヨ | クの地震と天文

去る1935年十一月1日の朝、珍らしく米國=ニユ | ヨ | ク市で有感の地震があつた。米國の殊に東部では平常殆んど地震が無くて、有名なスカイ・スクレイパーと呼ばれる數十階の高い建築物がドンドン建てられて行く有様であるから、此の地が將來も大地震に見舞はれるものならば實に大變な被害を豫想しなくてはならない。近年=ニユ | ヨ | ク市で感じた地震としては、上記のほかに、

1914年二月10日

1925年二月28日

の二回で、共にカナダに震源を有するものである。こんどの1935年の地震と比べ合せて見ると、週期が約10年となつてゐるのも奇であるが、之れを太陽黒點と關係づけるのは、少々早過ぎるかも知れない。すいぶん昨年の地震は米國邊の地震學者を騒がせてゐるやうであるが、ハーバード大學天文臺の H. T. Stetson 博士は之れを月の引力に歸してゐる。〔NYT (1935. 11. 3)〕